スペイン　今年のカキは収穫が遅く大玉が不足

FreshPlaza　2023年10月18日

スペインの主要なカキ産地であるバレンシア州では、例年よりも暖かい天候の影響で、ロホ・ブリランテ品種の収穫が通常よりゆっくりと進んでおり、小玉と中玉が多くなっている。需要は高く、価格は収益の出る水準を維持している。

フルタスインマ社のマネージャーであるインマ・トレグロッサ氏は、「今年のカキの出荷シーズンは、果実の成熟の遅れと出荷開始時の大玉の不足により、非常にゆっくりと進行している。気象条件、特に過剰な暑さによって悪影響を受けており、果実の着色が遅れ、コナカイガラムシやコナジラミなどの害虫の蔓延を促している」と言う。（以下「　」は同氏の発言）

生産量は最初の見通しでの予想を下回っているが、悪天候のために出荷量の70％以上が失われた前シーズンよりはかなり多くなっている。「雹と害虫により、予想した収穫量のうち約25％が失われた。害虫による被害は続いており、今後数週間で状況がどのようになるかを見守っている。しかし、今のところ、今年のカキは、外観、果肉とも非常に品質が良いようだ。」

「昨年のこの時期よりも多くのカキがあるが、通常の出荷量があった他の年と比較すると、市場はまだ比較的空いている。これも大玉が少ないためである。弊社は、卸売市場への供給に特化しており、そこでは通常、大玉が求められる。マンダリンでも似たようなことが起こっている。」

このバレンシア州の会社のマネージャーによると、需要は高く、現在の価格は高い生産コストをカバーして利益を上げるのに十分である。「昨年は非常に困難だったので、今年は出荷シーズンを通して価格がこのままであることを願っている。いずれにしても、少なくとも11月の第1週を過ぎるまでは多くのカキは期待できない。カキは寒い季節の商品であるため、気温が下がれば需要が高まると見られる。」

同社は、年間約5千トンのカキを出荷・販売している。それらは主に国内の伝統的な市場で販売され、ドイツ、イタリア、フランス、ベルギー、ハンガリー、ポルトガルなどのヨーロッパ諸国、及びカナダ、ブラジル、ヨルダン、ドバイ、シンガポール、香港などの非EU諸国にも出荷される。

（関連記事）スペイン　カキは不良果が多くかなりの減収

FreshPlaza　2023年10月18日

ラ・ウニオ（バレンシア州の農畜産業者団体）のカキ栽培組合長であるシモ・マドラマニー氏は、「今シーズンは不良果が多く、ほとんどの場合50％を超えている。したがって、我々の出荷見通しは、昨シーズンよりもはるかに量が少なく25万トンに達することはほとんどないだろうというものだ」と述べた。（以下「　」は同氏の発言）

「天候の悪さには、害虫の発生率と数の増加が含まれ、生産者は実際に収穫される量の50％または60％を超える損失を想定することもよくある。カキに関して気候変動はますます重要になっており、特定の地域では渋味果の問題が数多く起きている。この意味で、当団体は気候変動によりよく適応した新品種の研究を提案している。また、発生したすべての損害を現在の保険制度でカバーすることを提案している。」

（今年始まった中国への輸出について省略）

同氏は、このセクターの将来と新しい市場の開放に伴うカキの可能性は、2つの異なる視点から取り組む必要があると考えている。「一方で、生産者は出荷シーズンごとに大きな課題に直面している。我々はますます多くの農業上の困難に直面しており、この作物を生産することがますます困難になっている。収益性は年々低下しており、わずかばかりの価格の上昇はコストの増大と不良果の増加を補うものではない。他方プラス面としては、中国市場のような新しい国際市場の開放は需要を増加させ、ヨーロッパ市場の混雑を緩和し、これは通常の条件下では価格の上昇につながるはずである。この価格の上昇が、いつものように農食サプライチェーンの中間段階に利益をもたらすだけでなく、生産者に利益をもたらすことを願っている。」